

## 環日本海域の植生とヒマラヤ

著者	大場 英章
雑誌名	金沢大学21世紀COEプログラム推進シンポジウム - 環日本海域の植物資源の現状と保全 - :論文要旨 集
ページ	16-17
発行年	2003-11-23
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/5587">http://hdl.handle.net/2297/5587</a>

# 環日本海域の植生とヒマラヤ

大場秀章

東京大学総合研究博物館

## The flora of the Circum Japan Sea region and its relation to the Himalayan flora

Hideaki Ohba

University Museum, University of Tokyo, Hongo 7-3-1, Tokyo 113-0033, Japan

ohba@um.u-tokyo.ac.jp

日本海を取り囲む地域の植生・植物相には大きな地方差がある。日本列島では普遍的に存在するササ類が朝鮮半島・沿海州にはなく、北日本の森林植生を代表するブナも見られない。日本海を挟む朝鮮半島・沿海州地方と日本列島の全域の植生・植物相を比較検討できる、共通の基盤にたつて集積されたデータは現段階ではなく、分析的な研究はこれからの課題である。植生とそれを構成する植物相の植物地理学的考察において環日本海地域が定義可能なひとつの単位となりえるかどうかは今後問われるところであろう。

環日本海地域に関連する研究例を紹介すると、小泉（1931）は日本に遺存的に産し、主に朝鮮半島と中国東北部に分布する植物を満鮮要素とし、堀田（1974）はこの要素の植物がウルム氷期に渡来した遺存的なものであると述べた。Ohba（1993）は、ツガルミセバヤと *Hylotelephium ussuriense* 及びヒメイワベンケイとホソバイワベンケイの分布に関連して環日本海型という言葉を用いた。環日本海型は分布パターンに対する命名であり、パターン形成については不問にされている。満鮮要素は日本では主に草原に生えたとされ、こうした植物の主たる分布域の植生も草原であるような印象がもたれている。また、Ohba が対象とした植物も岩礫地や高山種である。

対象となる地域の主要部は暖かさの指数で 45C・月以上であり、気候的には冷温帯に分類され、永久凍土が形成されることはなく、落葉広葉樹林あるいは針広混交林に集類される多様な森林植生が発達する。小泉や Ohba が対象としたのはこの地域の植生構成種としては特殊なものといつてよい。

他方、ヒマラヤも環日本海地域同様かそれ以上に植生もその植物相も多様である。ヒマラヤは植物地理学の観点ではこれまで、東側に位置する中国・日本との関連が指摘され、日華植物区系区の一部に含める見解が提唱され、多くの支持を得ている。しかし、環日本海地域の植生を構成する植物相との関係が直接議論されたことは皆無である。環日本海地域をひとつのまとまりある地域をして認知する考え方がなかったためであることは論を俟

たないが、環日本海大陸側とヒマラヤではその間に広大な中国大陸が位置しており、相互にあまりにも遠い地域であり、両地域の比較は研究者の念頭にまったくなかったのではないかと想像される。

これまでの中国・ヒマラヤ地域での調査・研究を踏まえ、環日本海地域の現場に接することで植物地理学を中心に新たな研究を開拓していくことは、ユーラシアにおける第三紀中新世以降ならびに後氷期後の植物での多様性解明に大きな意義を有していると考えられる。また、このような研究を開始するだけの知見と経験が日本人研究者の間に蓄積されつつあり、その機は熟している。

The dominant vegetations of the regions surrounding the Japan Sea including the Japan Archipelago, Korean Peninsula, Amur and Ussuri regions, and the Sikhote Alin mountains are cool-temperate broadleaved deciduous forests and panmixed forests of the ecotonic zone between cool-temperate and subarctic zones. Although the flora of the regions are greatly diverse, studies on the floristic similarity, relationship and diversification have been little done. Ohba (1993) proposed Circum Japan Sea type of distribution in some species of Crassulaceae. However, it is not confirmed in other cases. It is urgent to make a comparison of the regional floras in the Circum Japan Sea region. No phytogeographer has noticed the floristic relations between the Circum Japan Sea region and the Himalayan region.